

科目区分	専門分野	授業科目	地域・在宅看護論概論
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30 時間)	開講年次	1年次
<p>目的: 地域で暮らす人々の生活や行われる看護の特徴を理解し、支援につなげる基礎的な能力を養う。 目標: 1 地域で暮らす人々の生活を理解し、健康との関連が理解できる。 2 地域で行われる看護の概要が理解できる。</p>			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 地域で暮らす人々の生活と健康	4	1 人間の「暮らし」 1) 生活者としての人間 2) 健康の定義 3) 健康と生活 2 地域看護の目的と対象 1) 個人・家族・集団・コミュニティ(地域) 2) 看護活動の場の広がり 3 地域での看護活動の変遷 4 地域保健医療福祉に関わる法律と施策 1) 主な保健医療福祉機関の種類と内容 2) 主な法律と制度 3) 介護保険制度 5 地域看護活動に必要な概念 1) プライマリヘルスケア 2) ヘルスプロモーション 3) 家族看護 4) ケアマネジメント	
2 地域で暮らす人々の生活と健康の実際	11	1 生活環境の変化と健康問題 1) 環境が生活に及ぼす影響 2) 継続的・包括的に生活をとらえる必要性 3) 生活環境の変化と健康問題の実際※4	
3 地域で行われる看護	6	1 地域ケアシステム 1) 地域包括ケアシステムと社会資源 2) 地域での生活を支える組織活動 3) 看護の継続性(療養の場の移行に伴う看護) 4) 多職種の機能と役割、協働・連携 5) 看護職の役割	
4 在宅看護の機能	4	1 在宅看護の概要 1) 在宅看護の目的と特徴 2) 在宅看護の対象と特徴 3) 在宅療養の支援(医療機関・施設との連携) 2 在宅看護を支えるシステム 1) 訪問看護と制度 2) ケアマネジメントと訪問看護	
5 在宅看護における看護倫理	4	1 在宅看護の倫理的課題 1) 在宅看護における権利保障 2) 倫理的課題と自己決定	
	1	試験	
評価方法		筆記試験、レポート、グループワーク発表	

テキスト	医学書院 地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護の基盤 医学書院 地域・在宅看護論〔2〕 地域・在宅看護の実践
参考資料	看護師のための地域看護学（ピラールプレス）
履修上の 留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 グループワークは積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は提出日時を厳守すること。
備考	※4はフィールドワークを行う。 単元2 生活環境の変化と健康問題の実際では、地域での暮らしを知り、健康問題と暮らしのつながりを見出せるようグループ別にフィールドワークを行い、グループ発表で結果を共有する。基礎看護学実習Ⅰにつながる内容となっている。

科目区分	専門分野	授業科目	地域・在宅看護論援助論 I
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(15 時間)	開講年次	2年次
<p>目的: 多様な場で提供される看護を理解し、地域での支援を行うための基礎的知識を養う。</p> <p>目標: 1 在宅看護の提供方法と看護師の役割が理解できる。 2 継続看護の必要性を理解し、様々な職種や関係機関との連携が理解できる。 3 在宅看護における安全管理について理解できる。</p>			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 在宅看護の提供方法	4	1 在宅看護の提供方法 1) 外来看護と看護師の役割 2) 訪問看護と看護師の役割 3) 施設での看護と看護師の役割	
2 継続看護とチームケア	6	1 療養の場の移行に伴う看護 2 在宅療養状態別にみた対象者の特徴 3 個からみた地域ケアシステムとその構築および発展方法 4 地域・在宅における多職種・他機関との連携 1) 在宅における連携の特徴 2) 関係する職種・機関の機能と役割 3) 地域の社会資源との連携 4) ネットワークづくり 5) 看護師の役割	
3 在宅看護における安全管理	4	1 在宅看護におけるリスクマネジメント 1) 生活上のリスクとリスクマネジメントの必要性 2) 環境整備による安全確保 (1) 転倒・転落、熱中症、窒息、溺水、火災 (2) 身体損傷 (3) 薬物 (4) 感染 2 災害に対する準備と対応	
	1	試験	
評価方法	筆記試験、レポート等		
テキスト	医学書院 地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護の基盤 医学書院 地域・在宅看護論〔2〕 地域・在宅看護の実践		
参考資料	ピラールプレス 看護師のための地域看護学		
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 提出物は提出日時を厳守すること。		
備考			

科目区分	専門分野	授業科目	地域・在宅看護論援助論Ⅱ
講師名		実務経験の有無	
単位数(時間)	1単位(30 時間)	開講年次	2年次
<p>目的: 在宅療養を支える訪問看護について理解し、居宅における看護の役割を学ぶ。</p> <p>目標: 1 訪問看護ステーションの概要及び活動内容を理解できる。 2 訪問看護制度に基づく看護について理解できる。 3 訪問看護の対象の特徴を理解できる。 4 訪問看護におけるケアマネジメントや社会資源の活用方法について理解できる。</p>			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 訪問看護の概要	13	1 訪問看護サービスのしくみと提供 1) 訪問看護とは 2) 訪問看護の創設と発展の経緯・現状 3) 訪問看護制度 4) 訪問看護ステーションのしくみ (1) 開設基準と従事者 (2) 法に基づく訪問看護事業 (3) 訪問看護利用までの流れと費用 (4) 訪問看護サービス提供	
2 訪問看護の対象	13	1 訪問看護の対象の特徴 2 住まい方と健康 1) 健康に暮らせる住まいと住まい方 2) 対象の個性を尊重した看護 3) 在宅生活継続の支援 3 家族支援の実際 1) 訪問看護の対象としての家族 2) 家族の捉え方と看護師の役割 3) アセスメントと家族支援 4) 地域ケアシステムの視点からの家族支援	
3 訪問看護におけるケアマネジメントと社会資源の活用	3	1 ケアマネジメントの概念と機能 2 社会資源の活用	
	1	試験	
評価方法	筆記試験		
テキスト	医学書院 地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護の基盤 医学書院 地域・在宅看護論〔2〕 地域・在宅看護の実践		
参考資料	必要に応じて適宜紹介する。		
履修上の留意事項			
備考			

科目区分	専門分野	授業科目	地域・在宅看護論援助論Ⅲ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	2年次
目的: 在宅看護における対象別看護の実際について理解し、看護活動を行うための基礎的能力を養う。 目標: 1 在宅看護介入の目的と特徴について理解できる。 2 対象別看護の特徴と支援方法について理解できる。 3 訪問看護の特性を踏まえた看護過程の特性を理解できる。			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 在宅看護の介入	10	1 対象者の生活地域のアセスメント 2 病状経過に応じた看護と継続性 1) 在宅療養準備期 2) 在宅療養移行期 3) 在宅療養安定期 4) 急性憎悪期 5) 終末期(看取り) 6) 在宅療養終了期(グリーンケア)	
2 対象に応じた在宅看護(事例)	8	1 小児の療養者への看護 2 精神疾患の療養者への看護 3 難病(ALS)を持つ療養者への看護 4 独居の療養者への看護	
3 訪問看護を利用する対象者の看護過程	11	1 訪問看護の看護過程の展開 1) 看護過程展開の特徴 2) ICF の概念 3) 訪問看護利用者の全体像の把握と臨床判断能力	
	1	試験	
評価方法	筆記試験、レポート		
テキスト	医学書院 地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護の基盤 医学書院 地域・在宅看護論〔2〕 地域・在宅看護の実践		
参考資料	必要に応じて適宜紹介する。		
履修上の留意事項			
備考			

科目区分	専門分野	授業科目	地域・在宅看護論援助論Ⅳ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	2年次
目的: 在宅看護における援助を実践するための基礎的知識と技術を習得する。 目標: 1 在宅看護活動に必要なコミュニケーション技術が理解できる。 2 在宅看護に必要な看護技術を理解し、基本技術ができる。 3 対象者の病状経過の予測や予防的支援に関する基本的技術ができる。			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 在宅で求められる看護技術	29	1 在宅看護活動を支えるコミュニケーション ※1 1) 訪問看護におけるマナー 2 在宅看護に必要な病状・病態の予測と予防 1) ヘルスアセスメント 2) フィジカルエグザミネーション 3) 健康行動理論・セルフケア理論の活用 3 呼吸に関する在宅看護技術 1) 呼吸のアセスメントと援助 2) 在宅酸素療法(HOT) 3) 人工呼吸療法(NPPV・HMV) 4 食生活・嚥下に関する在宅看護技術 1) 食生活・嚥下のアセスメントと援助 2) 経管栄養法(経鼻・胃瘻) 3) 在宅中心静脈栄養法(HPN) 5 排泄に関する在宅看護技術 1) 排泄のアセスメントと援助 2) おむつ交換・摘便 ※1 3) 膀胱留置カテーテル 4) ストーマ管理 6 移動・移乗に関する在宅看護技術 1) 在宅での移動・移乗に関するアセスメントと援助 2) 福祉用具の活用 7 清潔に関するアセスメントと援助 1) 清潔のアセスメントと援助 2) 入浴・清拭 3) 褥瘡の予防とケア 8 疼痛緩和に関するアセスメントと援助	
	1	試験	
評価方法	筆記試験		
テキスト	医学書院 地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護の基盤 医学書院 地域・在宅看護論〔2〕 地域・在宅看護の実践 インターメディカ 写真でわかる訪問看護アドバンス		
参考資料	必要に応じて適宜紹介する。		
履修上の留意事項			
備考	※1は演習を行う。		

地域・在宅看護論実習Ⅰ

〔2単位 90時間〕

目的

在宅で療養する対象者とその対象を取り巻く環境を理解し、対象に応じた看護が実践できるための基礎的能力を習得する。

目標

- 1 訪問看護ステーションの概況および特徴を知り、役割・機能が理解できる。
 - 1) 訪問看護ステーションの沿革、利用の仕組みや手続きが理解できる。
 - 2) 訪問看護ステーションの利用状況、利用者の概況およびニーズを把握し、その活動状況から訪問看護師の役割が理解できる。
- 2 訪問看護を受けている対象の特徴と生活状況に合わせた看護の必要性が理解できる。
 - 1) 対象の身体的・心理的・社会的（環境・生活・家族・介護状況）の情報収集ができる。
 - 2) 対象の療養生活に、健康障害や多様な家族形態や価値観、生活環境や習慣生活様式が関連することを理解する。
 - 3) 対象の療養生活における看護目標と援助計画が理解できる。
 - 4) 対象の生活環境や習慣、家族の介護方法を尊重した科学的根拠に基づく看護実践方法が理解できる。
 - 5) 対象の生活状況を考慮した看護技術の工夫や特徴が理解できる。
 - 6) 対象のニーズに合わせた援助の必要性を見出すことができる。
- 3 訪問看護を受けている対象を尊重した援助関係形成の重要性が理解できる。
 - 1) 対象が置かれている状態や反応が示す意味を理解するためのコミュニケーション方法が理解できる。
 - 2) 対象の意思を尊重するかかわりが理解できる。
- 4 訪問看護を受けている対象の状態をふまえ、健康障害や生活環境に応じた安全の確保が理解できる。
 - 1) 対象の状態に応じた安全・安楽な看護技術の提供の実際が理解できる。
 - 2) 対象の生活をふまえた事故防止の方法を理解できる。
- 5 在宅で療養する対象の生活の質（QOL）の維持・向上のための、地域包括ケアシステムの特徴と看護の役割が理解できる。
 - 1) 対象の生活に必要な関係職種との連携・協働の在り方および社会資源活用の実際（種類・導入方法）が理解できる。
 - 2) 施設内看護と訪問看護との連携や継続看護の必要性を理解できる。

実習時期 2～3年次 12日間

地域・在宅看護論実習Ⅱ

〔2単位 90時間〕

目的

地域で生活するあらゆる健康段階や発達段階にある対象に対する保健活動・医療活動を理解し、健康保持・増進、健康管理や生活活動の維持を目指した援助を実践できる基礎的能力を習得する。

目標

- 1 地域で生活するあらゆる健康段階や発達段階に応じた保健活動を理解できる。
- 2 健康の維持・増進を目指す対象を理解し、保健活動・看護活動の特徴を理解する。
- 3 老年期における対象と看護活動の場および看護の特徴を理解する。
- 4 対象の生涯を通して切れ目のない保健活動や看護活動の必要性を理解し、自己の看護に対するあり方（看護観）を深めることができる。

内容

- 1 市町村保健センター
- 2 健診センター
- 3 老人保健施設
- 4 老人福祉施設

実習時期 3年次